

無加温越夏栽培におけるパプリカの有望品種		
[要約] 無加温越夏栽培で、赤色種は「クプラ」、「プレんティ」、黄色種は「コンフェティ」、「ダービー」、「チェルシー」、オレンジ色種は「プレジデント」、「ブギ」が収量と品質に優れる。		
農業総合センター鹿島地帯特産指導所	成果 区分	普及(情報)

### 1. 背景・ねらい

パプリカは、国内産より輸入が多い状況が続いているが、近年の食生活の多様化や健康志向の高まりに伴い、国内産の需要が増加している。県内の生産は増加傾向にあり、その多くは暖房の必要がない無加温越夏栽培であるが、夏期の高温による品質低下が問題となっている。そこで、夏期にひび割れ、変形果等が少なく、収量、品質が優れる有望品種を選定する。

### 2. 成果の内容・特徴

- 1) 赤色種 5 品種について検討した結果、「クプラ」は可販収量が多く、A 品収量も多い。「プレんティ」は「クプラ」に収量では劣るが、A 品収量は同等である (図 1)。
- 2) 黄色種 4 品種について検討した結果、「コンフェティ」、「ダービー」、「チェルシー」は可販収量が多く、A 品収量も多い (図 2)。なお、「チェルシー」は果形が特によい (データ省略)。
- 3) オレンジ色種 4 品種について検討した結果、「プレジデント」は可販収量が多く、A 品収量も多い (図 3)。「ブギ」は A 品収量では「プレジデント」に劣るが、可販収量は同等である。なお、「プレジデント」は果形が特によい (データ省略)。

### 3. 成果の活用面・留意点

- 1) 鹿島南部地域の壤質砂土での施設栽培パプリカでの結果である。
- 2) 平成 18 年については土耕栽培、平成 19 年については養液土耕栽培での試験結果である。

#### 4. 具体的データ

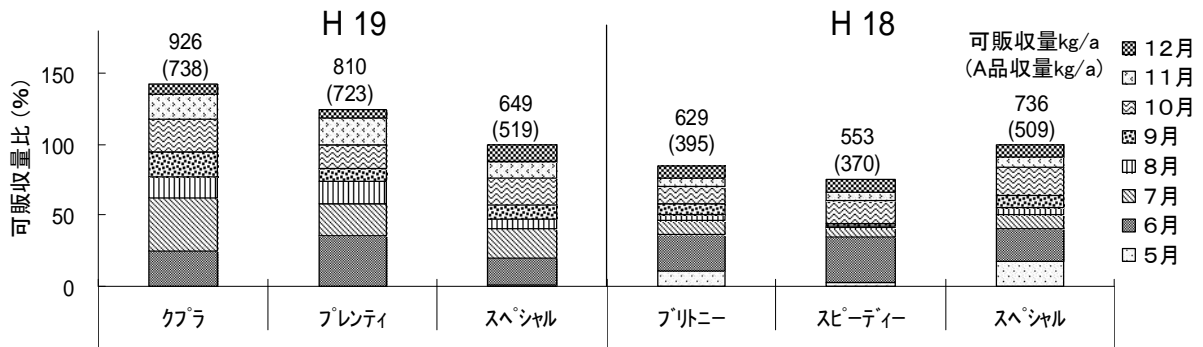


図1 パプリカ（赤色種）の可販収量比（「スペシャル」を100とした場合）

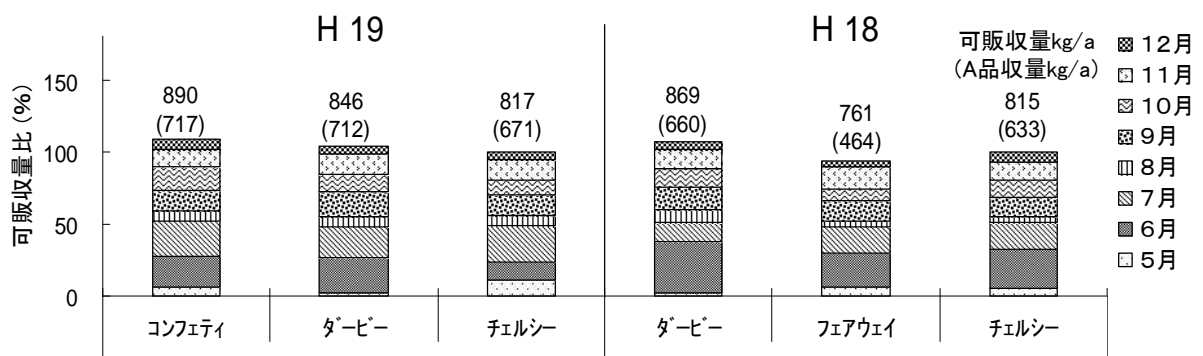


図2 パプリカ（黄色種）の可販収量比（「チェルシー」を100とした場合）

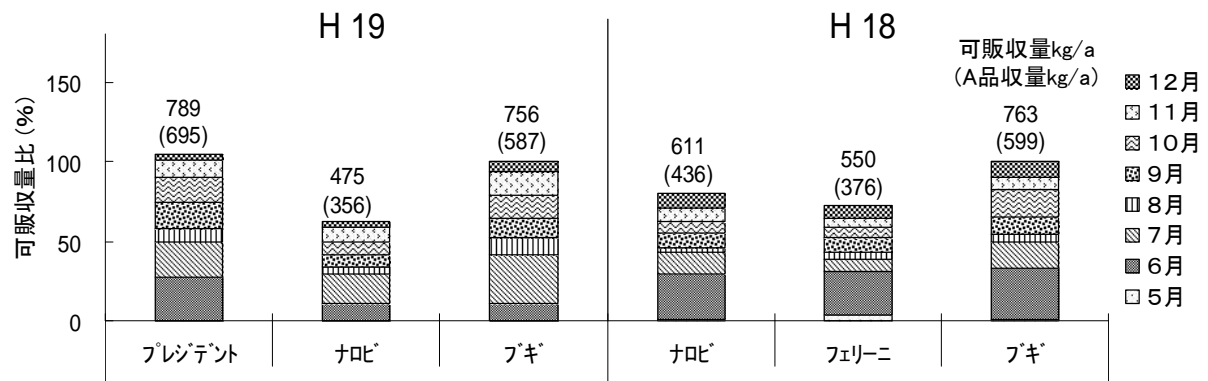


図3 パプリカ（オレンジ色種）の可販収量比（「ブギ」を100とした場合）

注) 図1,2,3 共通

平成19年：は種 平成19年 1月12日、定植 平成19年 3月12日、株間20cm、主枝2本仕立つる降ろし誘引

平成18年：は種 平成17年 12月20日、定植 平成18年 2月20日、株間20cm、主枝2本仕立つる降ろし誘引

#### 5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

環境に配慮したカラーピーマンの高品質安定多収生産技術の確立・平成18～平成19年度・鹿島地帯特産指導所